

令和4年度病害虫発生予察 特殊報第1号

令和4年11月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

1 害虫名 クロテンコナカイガラムシ *Phenacoccus solenopsis* Tinsley

2 発生作物 トマト

3 発生経過

令和4年9月下旬に県中部地域の施設栽培トマトにおいて、カイガラムシ類の寄生被害が確認された。当センターで虫体を観察したところ、背面の前方と後方にそれぞれ1対の明瞭な黒斑があったため、門司植物防疫所に同定を依頼した結果、本県では未確認のクロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley) であることが判明した。

4 国内での発生状況

国内では、平成21年に沖縄県で発生が初めて確認され、その後、佐賀県、福岡県、鹿児島県、長崎県、宮崎県等の15府県で発生が確認されている。

5 県内の発生状況

- (1) 初確認年月日：令和4年9月27日
- (2) 発生確認地域：県中部地域
- (3) 発生確認面積：10a

6 形態と生態及び被害状況

(1) 形態

雌成虫は翅がなく、体型は楕円形。体長は2～5mm程度。背面に白色のロウ物質を分泌するため、全体としては白く見えるが、背面の前方と後方にそれぞれ1対の明瞭な黒斑が見られる（写真2、4）。この黒斑は2齢幼虫以降に現れ、1齢幼虫には見られない（写真3）。

(2) 生態

繁殖は、交尾後産卵する有性生殖と雌成虫が交尾しない単為生殖の両方が知られている。卵の多くは雌成虫体内でふ化し、1 齢幼虫は歩行により分散する。雄は、2 齢幼虫の終わりに繭を作り、前蛹、蛹を経て羽化し、1 対の翅を持つ成虫になる。雌は、2 齢、3 齢幼虫を経て成虫となり、ワタ状の口ウ物質の卵のう内に 350 個程度産卵する。1 世代（卵～成虫）に要する期間は 70 日程度である。

(3) 被害状況

寄主範囲は広く、トマト、ナス、オクラ、ピーマン等の茎、葉等に寄生する。本虫の吸汁により、植物体が衰弱するほか、分泌する甘露（糖分を多く含む排泄物）による果実の汚れやすさ症状を引き起こす。

7 防除対策

(1) 令和 4 年 11 月 1 日現在、トマトでは登録のある農薬がないため、本種の発生及び被害の早期発見に努め、発生を確認した場合は速やかに寄生部位を除去し、適切に処分する。

(2) 本種は、キク科やスベリヒユ科等の雑草にも寄生するため、圃場内および周辺の除草を徹底する。

【大分県農林水産研究指導センター農業研究部原図】



写真 1 トマトへの寄生状況



写真 2 トマトへの寄生状況（拡大）



写真 3 1 齢幼虫（背部の黒斑なし）



写真 4 雌成虫